

(3) トピレック北側歩行者信号の青延長の実施

1) 経緯

当該交差点のある経路は、南側が民地（商業施設）であるため、交通バリアフリー法に基づく整備を行う「特定経路」ではなく「その他経路」に位置づけられている。現況は、東西方向に走る葛西橋通りを南北方向に横断する歩行者等が多く、地域での重要な交差点の1つとなっている。したがって、「その他経路」ではあるものの、高齢者や障害者等への配慮が求められる交差点である。

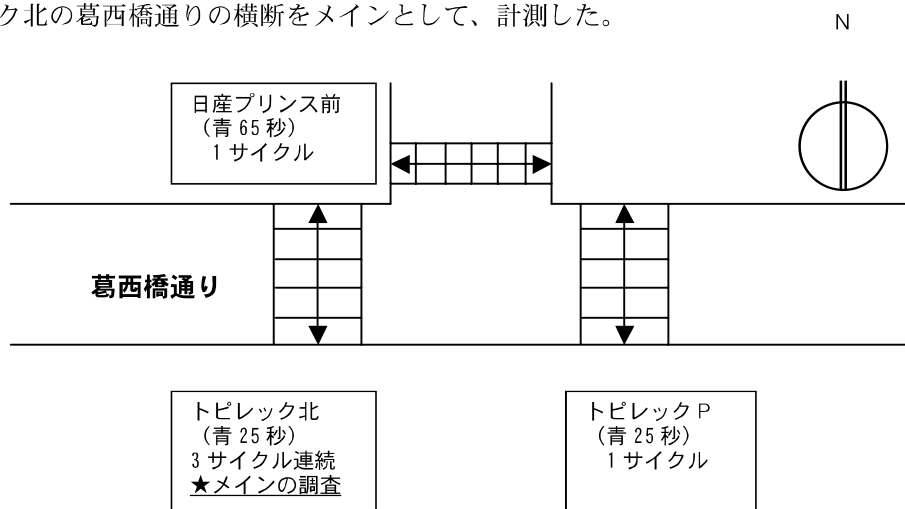
一方で、葛西橋通りは幹線道路であり、車両の交通量も多いために、南北方向の青信号は、健常者が横断する最低限の時間として、25秒に設定されている。このため、南北方向の青信号時間の延長及び青延長ボタンの設置について、所轄警察署や警視庁に検討を依頼したが、検討の資料を得るため、当該交差点の歩行者の通行量調査を実施した。

2) 通行量調査の目的

全通行量の中から、高齢者、障害者、幼児連れ等の移動困難者の割合を出し、青時間延長等を検討する際の基礎資料とする。（移動困難者の確認は目視によって行った。）

3) 通行量調査の方法

- ・調査日時：2006年10月12日（木）11:00～16:00
- ・トピレック北の葛西橋通りの横断をメインとして、計測した。



4) 通行量調査の結果

■南北方向合計（葛西橋通り横断）

単位：人/時

	高齢者	障害者	幼児連れ	自転車	左記以外	合計
合計	100	3	34	652	271	1,061
構成	9.44%	0.30%	3.18%	61.49%	25.59%	100.00%
	137					
	12.92%					

■東西方向合計

単位：人/時

	高齢者	障害者	幼児連れ	自転車	左記以外	合計
合計	30	0	11	143	47	231
構成	13.17%	0.00%	4.79%	61.68%	20.36%	100.00%
	41					
	17.73%					

- ・南北方向、東西方向ともに6割が自転車で、4割が歩行者となっている。
 - ・歩行者のうち、南北方向で3人に1人が移動困難者となっている。
- 歩行者の3人に1人が25秒で渡りきることが難しい状況となっていると推察される。
 （障害者は、車いす利用者、杖をついている人などである。）

5) 結果

- ・交通量調査の結果を所轄警察署に平成18年11月初旬に提出した。
- ・11月29日より、従来25秒であった青時間が、9時～16時の間に限り、31秒となり、今までより6秒間延長されることとなった。

■トピレック北交差点 通行量調査 現況写真(1) (06.10.12. (木) 10:00~16:00)



・自転車が多く、待ち時間に歩道にたまる。



・自転車レーンに関係なく一斉に渡り始める。ベビーカーの親子は出遅れる。



・ベビーカーの親子は最後尾で渡っている。

・自転車と歩行者とが錯綜している。

■トピレック北交差点 通行量調査 現況写真（2）



・杖をついている方が、青になり渡り始める。



・車いすが渡りきれずに赤信号となった。



・健常者が渡り終えても、まだ中央付近。



・高齢者が幼児を連れて駆け足で渡っていた。



・完全に赤となっても渡りきれない。



・ベビーカーが渡りきれずに車を気にしている。

(4) 南砂町やさしいまちの誘導システムの整備（ワークショップの実施）

1) やさしいまちづくりとの連携について

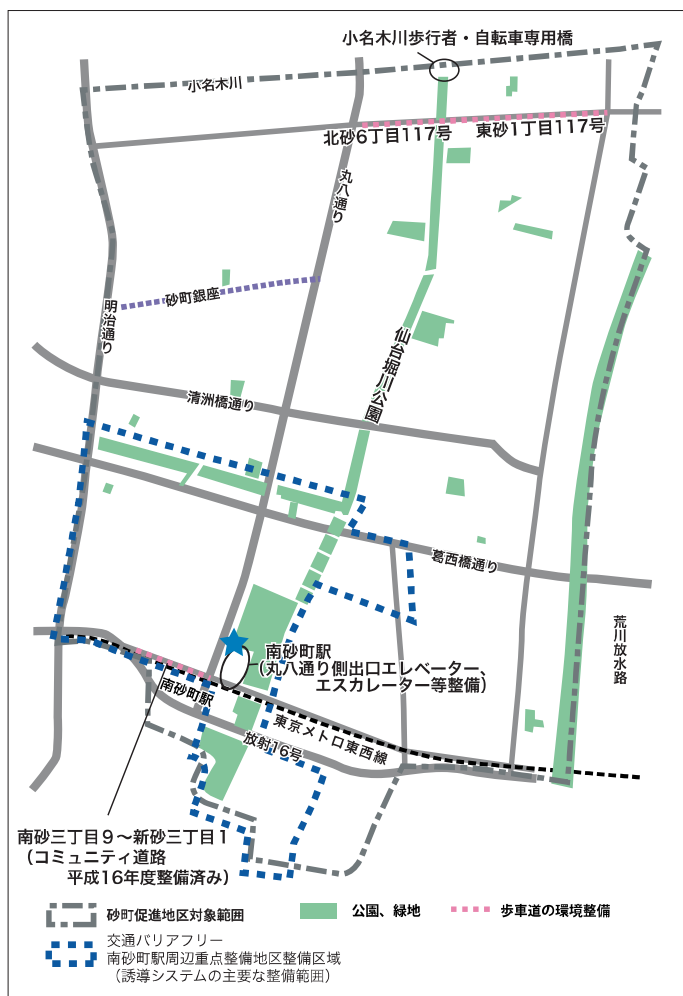
「やさしいまちづくり推進計画」が平成16年3月に策定され、計画に位置づけられた「促進地区」として、平成16～18年度の3カ年で「砂町地区」のやさしいまちづくりの整備計画及び、実際の整備事業を進めている。

やさしいまちづくりの事業が進行する中、平成18年3月に交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に「南砂町駅周辺地区」（促進地区の『砂町地区』の概ね南側半分のエリア）が設定され、「南砂町駅周辺地区 交通バリアフリー基本構想」が策定された。

このような経緯を踏まえて、基本構想の中で整備課題として取り上げた案内・誘導サインの整備については、やさしいまちづくりの中で「やさしいまちの誘導システム」の事業として具体的に取組むこととした。なお、当該事業は「東京都ユニバーサルデザイン福祉のまちづくりモデル事業」（平成16～18年）の一環として実施されており、「南砂町駅周辺地区」における誘導システムの整備は平成18年度に完成する予定である。

2) やさしいまちの誘導システムの背景

- ・砂町地区では、平成16年度より、区と区民の協働によるワークショップを行い、ユニバーサルデザインの視点からまちづくりを推進してきた。
- ・平成17年度には、地域内に「情報が不足」「駅がわかりにくい」「サインが必要」というワークショップからの提案を受け、18年度の新プロジェクトとして本事業が決定した。
- ・「やさしいまちの誘導システム」は、ワークショップの検討を踏まえて、区、区民、専門家、関係各所管の多くの関係者の連携のもと、全国的にも新しいユニバーサルデザインのサインシステムとして整備を実現したものである。



3) 誘導システムの目的

～安全・安心で誰もが円滑に移動できるわかりやすい環境の創造～

- ・本誘導システムは、ユニバーサルデザインの視点から、障害のある人、子供からお年寄りまで、土地を知らない人（外部・新規居住者）等、誰もが使いやすいサインを整備するとともに、サイン単体の設置にとどまらず、総合的な移動の円滑化を「わかりやすさ」の視点から担うものがある。

①誘導システム整備の目標

- ・誘導システム整備にあたって、ハード、ソフト両面から取り組む。その目標は下記のとおりである。

ハード	ソフト
<p>(a) 一定のルールに基づいた場所に整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所によってまちまちな設置場所やルールでは利用者が混乱するため、できる限り一定のルールにもとづいた場所に整備する。 	<p>(e) 人に聞きかけをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もの」をきっかけに、地域の人たちが「もの」を活用して自発的にやさしいまちをつくっていくように促す。
<p>(b) 曲がり角(辻)に目印をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなランドマークではなく、街角にあるちょっとした目印であり、それを頼りに曲がり角のタイミングをはかる。 	<p>(f) 地域の機運を盛り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのワークショップをさらに進化させ人のネットワークを活かして、参加と協働の機運を盛り上げる
<p>(c) 丈夫で変わらないものをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持コストが少なく、丈夫で長持ちするものを整備する。 	<p>(g) 地域住民による管理システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃や周辺の片付け、見守りなど、地域でできるものについては自発的に維持管理するシステムを構築する。
<p>(d) 環境全体として整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サインという「モノ」だけではなく、設置環境全体を考えて整備する。 	<p>(h) 多様な主体の連携により整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、事業者、区民など幅広い関連主体の連携により、真に地域住民に使ってもらえる整備を行う。

②整備の視点

- ・整備にあたり、下記の視点で進める。

(a) 交通バリアフリー重点整備地区と連携して進める

- ・交通バリアフリーと連携し、行政、事業者、区民など幅広い主体の連携により、総合的な移動の円滑化を「わかりやすさ」の視点から担うものとする。

(b) 参加により進める

- ・一番の案内は「人」の説明であり「人が」やさしいまちづくりを目指す。
- ・そのため、区民や障害のある当事者などの参加によるワークショップの手法を取り入れ、多くの人の意見を取り入れるとともに、地域の機運を高めながら推進する。

(c) スパイラルアップで進める

- ・整備、検証、次への反映のサイクルにより、ユニバーサルデザインの理念によるサイン整備の実現を目指す。

③対象範囲

- ・平成18年度の整備対象範囲は、南砂町駅を中心とした下図の範囲である。
- ・交通バリアフリー法の重点整備地区と連動している。

